

## 大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 大学名  | 千葉大学                           |
| 整理番号 | AR01                           |
| 事業名  | 極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム |

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

|  |                              |
|--|------------------------------|
| 総括評価<br><br><b>A</b>   | 事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。 |
| コメント<br>本事業は、千葉大学が「極東ロシアにおける未来農業に貢献できる人材」の養成を目指したものである。ロシアの4大学と連携し、4つの事業を柱として学位取得のプログラムを構築した。ロシア国内における大学再編やプログラム内容の適正化を図ったことにより、事業途中での相手大学数が6大学に、事業領域が当初の4から6領域に拡大され、また、「未来農業 FARM」に関わる修士課程及び学士課程プログラムが2021年10月に開始された。<br>事業展開では、「寒冷地における未来農業」といった魅力的で将来性のあるコンテンツを中心に据え、日ロ双方の大学のシステムの違いを考慮したカリキュラムや、単位数及び要件が効果的に設定されたことが評価できる。また、学生交流について、派遣・受入の双方に対し、入口及び成績評価、出口管理を FARM 委員会及び担当委員会にて行い、質の担保が図られている。環境整備については、派遣・受入のいずれの学生に対してもロシア人コーディネーター及び言語サポートを配置し、留学前、中、後の段階に合わせた、学業面、生活面、緊急時の対応等に関する情報ならびにサポートが効率的に提供されたことが評価できる。これらの努力の結果、日本人学生の派遣数、ロシア人学生の受入数の両方で計画を大きく上回った。<br>一方で改善の余地があった点としては、まず、修士共同プログラムの設立及び実施が当初の計画よりも遅く、2021年10月にオンラインにて開始されたことが挙げられる。また、継続可能性を含めたプログラムの評価や修了生のフォローアップ等が補助期間中に報告されなかったこと、及び中間評価時に指摘された外国語力向上に関する課題について取組がなされたものの、基準達成率は依然低かったことが挙げられ、今後より一層の検討が必要である。<br>今後の展開については、本事業は FARM が掲げている「園芸+デザイン+文化」のように、文理融合の横断的かつユニークなプログラムの実例を通して、大学教育のグローバル展開に貢献すると考える。特に、中間評価後の2大学の追加による修士共同プログラムの設立を含む本事業全体の再構築は参考に値する。一方、本事業で育成された日ロ両国の人材の活用及びネットワークの構築等、今後の継続的かつ系統的な仕組みによるグローバル展開力の強化の検討が望まれる。<br>最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。 |                              |